

令和2年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号 4

千葉県立千葉商業高等学校 全日制の課程 商業・情報処理科

1 期待する生徒像

人物に優れ、本学科を志願する動機が明確であり、入学後、普通科目に加えて商業分野の学習、資格取得に熱意を持って取り組む意志があること。かつ次のいずれかに該当する生徒。

ア 中学校生活において、学習活動、生徒会活動、学校行事等に意欲的に取り組み、入学後も継続して取り組む意志があること。

イ スポーツ活動、文化活動において顕著な実績又は能力を有し、入学後も継続してその活動に取り組む意志があること。

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 自己表現	次のア、イのいずれかを、出願時に志願者が選択 ア 口頭による自己表現（日本語による自己アピール） 実施形態：個人で発表 検査時間：1人の目安は5分～10分程度 (発表する時間は3分間) イ 実技による自己表現（次の実技のうち1つを選択） 硬式野球（男）・サッカー（男）・ソフトボール（女）・ バレーボール（女）・陸上競技（男女）・ソフトテニス（男女）・ バスケットボール（男女）・バドミントン（男女）・ ハンドボール（男女）・柔道（男女）・剣道（男女）・吹奏楽（男女） 実施形態：個人又はグループ 検査時間：1人の目安は5分～10分程度 1グループの目安は30分～60分程度

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査 [500点満点]

評価項目	評価基準
ア 5教科の得点合計	5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。
イ 個々の教科の得点	10点未満の教科がある場合は、審議の対象とする。

(2) 調査書 アの数値を「調査書の得点A」とする。Aの数値に、イ及びエについて加点（上限20点）したものを「調査書の得点B」とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。 評定1又は未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	3か年皆勤である場合は加点する。 欠席が、1つの学年で20日以上、又は3年間の合計が40日以上ある場合は、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	○印の数が1個以下の場合、審議の対象とする。

エ 特別活動の記録、部活動の記録及び特記事項	「生徒会活動」で特に優れた内容と認められる記述については加点する。 「部活動の記録」又は「特記事項」で特に優れた内容と認められる記述については加点する。 資格取得については、英検準2級以上、漢検準2級以上、商業に関する資格上位級について加点する。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 自己表現〔140点満点〕

次のア、イについて、それぞれ2名の評価者が、(ア)～(ウ)の3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（極めて優れている）・b1（優れている）・b2（標準的である）・b3（やや標準に足りない）・c（大きく標準に足りない）の5段階で評価する。

(ア)、(イ)については20点、(ウ)については30点を満点とし、2名の評価者の評価（各70点満点）を合計し、得点化する。評価cが含まれる場合は、審議の対象とする。

ア 口頭による自己表現（日本語による自己アピール）

評価項目	評価基準
(ア) 意欲・意志・身だしなみ・態度	本校を志願する動機が明確である。 発表に対して、積極的・意欲的である。 服装頭髪等、身だしなみが整えられている。 基本的な礼儀や作法が身に付いている。
(イ) テーマ・内容	発表内容のテーマ設定が適切であり、内容が整理され、まとまっている。 発表内容に説得力がある。 定められた時間を有効に活用し、適切な内容で発表できている。
(ウ) 能力・表現力	発表における技能を身に付けている。 表現力豊かに分かりやすく伝えている。 明瞭かつ正しい言葉遣いで、発表内容が明確に伝わってくる。

イ 実技による自己表現（部活動実技）

評価項目	評価基準
(ア) 意欲・意志・身だしなみ・態度	本校を志願する動機が明確である。 当該種目の取り組みが、積極的・意欲的である。 身だしなみが整えられ、当該種目で指定されたものを着用している。 当該種目実施時の、基本的な礼儀や作法が身に付いている。
(イ) 基礎的技術・能力	当該種目において、基礎的な技術や能力を身に付けている。
(ウ) 専門的技術・能力	当該種目において、専門的な技術や能力を身に付けている。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

ア 「学力検査の成績」と「調査書の得点A」の合計により順位をつけたとき、次のパーセント以内にある者は、入学許可候補者として内定する。

(ア) 受検者数が予定人員以内のときは、受検者数の70パーセント

(イ) 受検者数が予定人員を超えるときは、予定人員の70パーセント

ただし、学力検査の個々の教科の得点、調査書の教科の学習の記録、出欠の記録、行動の記録及び第2日の検査（自己表現）の結果等に問題となる点がないこと。

イ 上記アで決まらなかった者については、「学力検査の成績」と「調査書の得点B」の合計に「第2日の検査（自己表現）の得点」を加えた「総得点」で順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、予定人員までを入学許可候補者として内定する。

<総得点の満点の内訳>

学力検査 の成績	調査書の得点		第2日の検査の得点	総得点
	評定（算式1）	加点	自己表現	
500点	$(135 + \alpha - m)$ 点	20点	140点	$(795 + \alpha - m)$ 点

（算式1） α ：県が定める評定合計の標準値95

m ：中学校評定合計平均値

(2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはしない。

5 その他

過年度卒業者については、第2日の検査終了後、別途個人面接を行う。